



第62期(平成22年3月期) 第2四半期決算説明資料

2009年11月4日

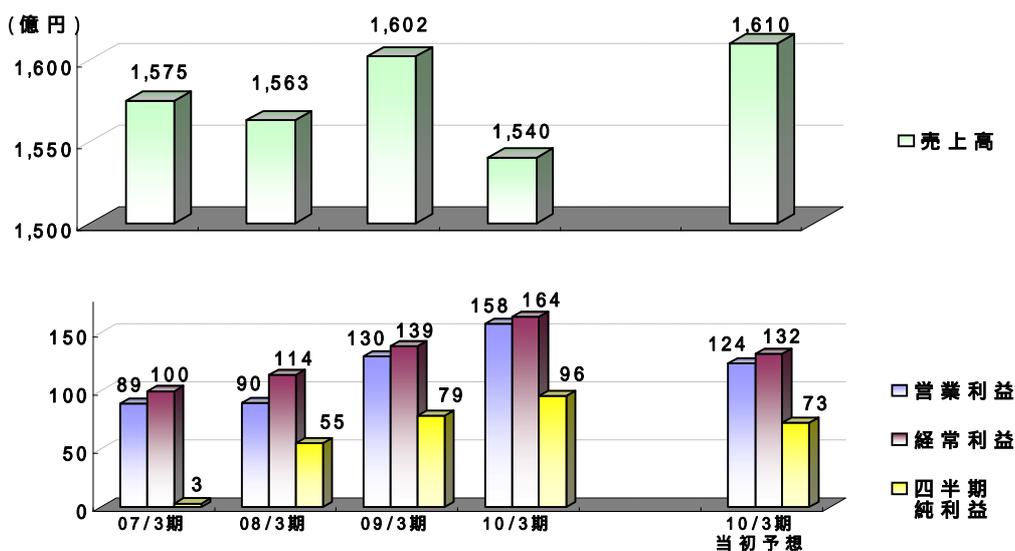


東洋水産株式会社

1



第2四半期(累計)連結業績

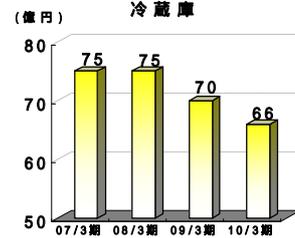
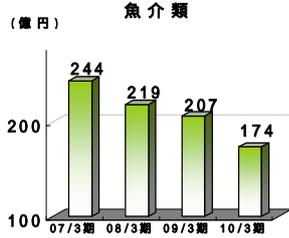


2

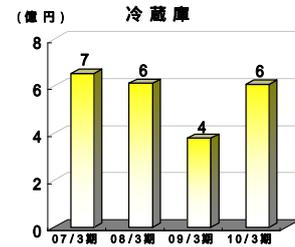
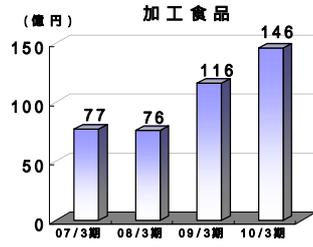
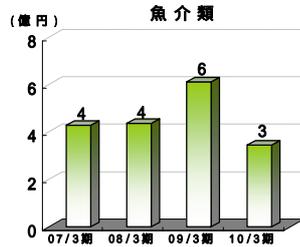


第2四半期(累計)連結業績・・・セグメント

売上高



営業利益

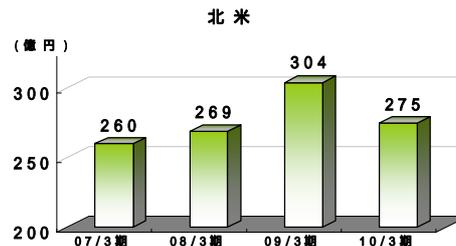
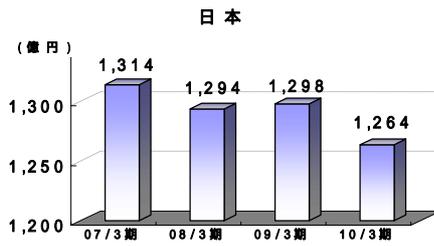


3

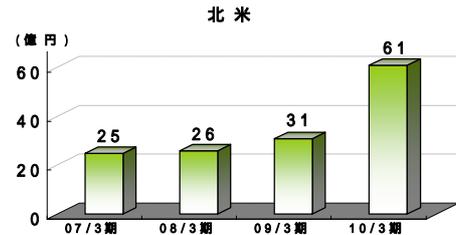
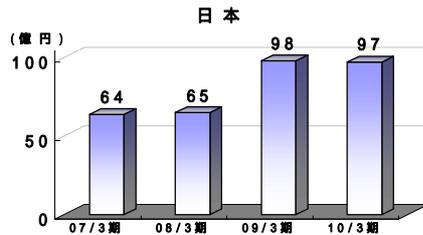


第2四半期(累計)連結業績・・・セグメント

売上高



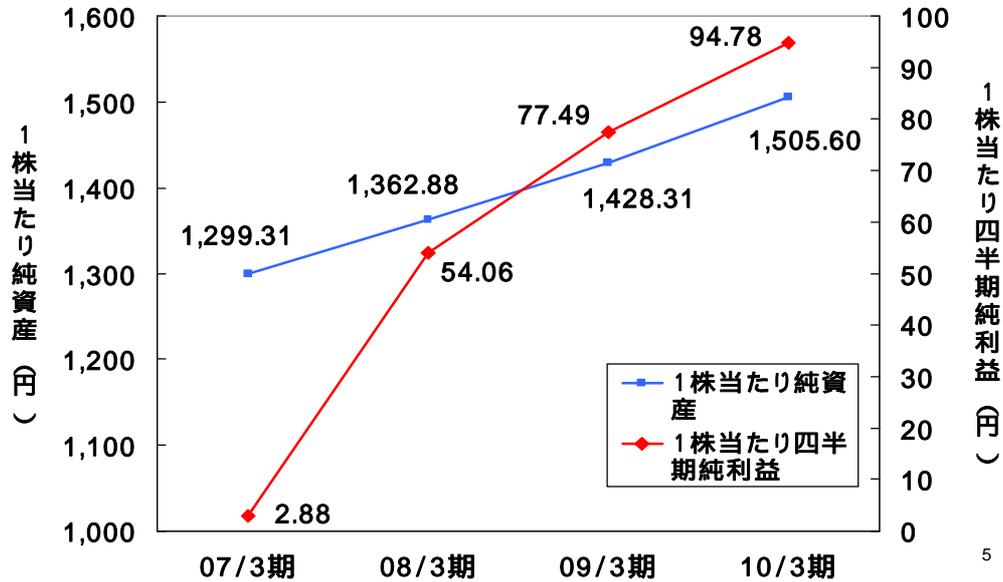
営業利益



4



第2四半期(累計)連結業績・・・経営指標の推移



5



国内事業について

6



上半期国内事業営業利益増減益要因

国内加工食品

< 増益要因 >	製造経費率減少	+ 4 億円
	原材料費率減少	+ 3 億円
< 減益要因 >	売上高減少	1 億円
	販管費率増加	6 億円
合 計		± 0 億円

水 産

・低価格志向による魚介類離れ 3 億円

冷蔵庫

・荷主の在庫量増加 + 2 億円

7



国内即席麺

・基幹ブランド商品のリニューアル・キャンペーン実施

赤いきつね 緑のためきリニューアル
新製法により、より滑らかで喉ごしのよい麺。
まぐろエキスを隠し味にしたコクのあるつゆ。
和風麺の商品特徴をアピールしたCMを放映。



麺づくりシリーズリニューアル



< Smiles For All. ~すべては笑顔のために~ >
をコンセプトとしたキャンペーンの実施

・商品企画

コラボ企画「“うまい大盛”グランプリ」で惜しくも
選ばれなかった幻のフレーバーをでかまるで発売。



8



生 麵

- ・夏季の天候不順
- ・流通の低価格訴求
- ・メーカー間の競争激化



9



当期の見通し

< 即席麵 >

- ・ 積極的な商品展開
- ・ 不透明な販売環境
- ・ 関東工場稼働



< 生麵 >

- ・ 商品ラインナップの充実
- ・ 消費者キャンペーン
- ・ メニュー提案商品
- ・ 埼玉工場本稼働



会社計画の達成に向け努力

10

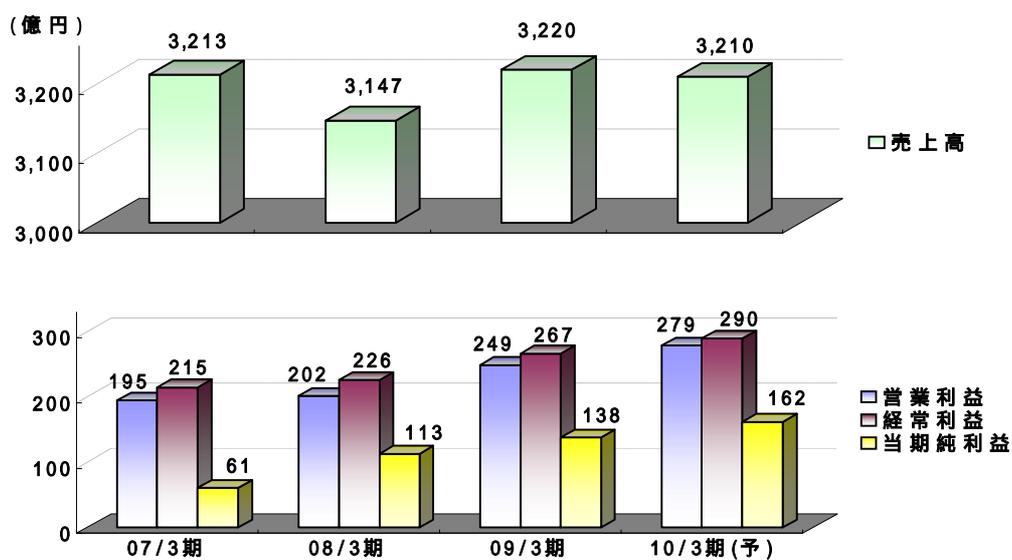


通期予想について

11



当期連結通期予想

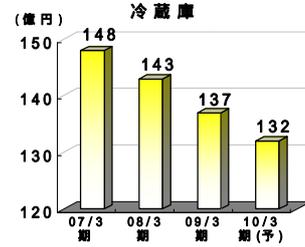
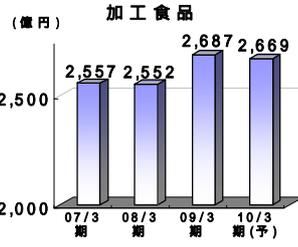
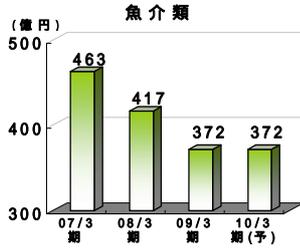


12

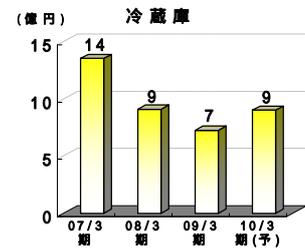
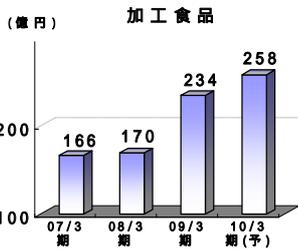
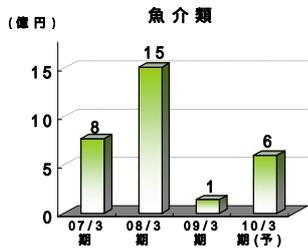


当期連結通期予想・・・セグメント

売上高



営業利益

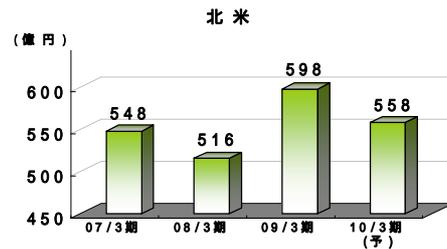


13

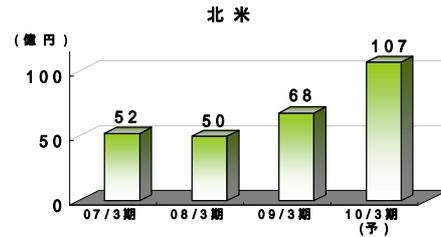


当期連結通期予想・・・セグメント

売上高



営業利益



14



当期連結通期予想・・・国内事業増減益要因

国内加工食品

< 増益要因 >	原材料費率減少	+ 12 億円
	製造経費率減少	+ 3 億円
	売上高増加	+ 2 億円
< 減益要因 >	販管費率増加	3.5 億円
合計		18 億円

水産

・生活防衛意識による販売低迷	+ 4 億円
----------------	--------

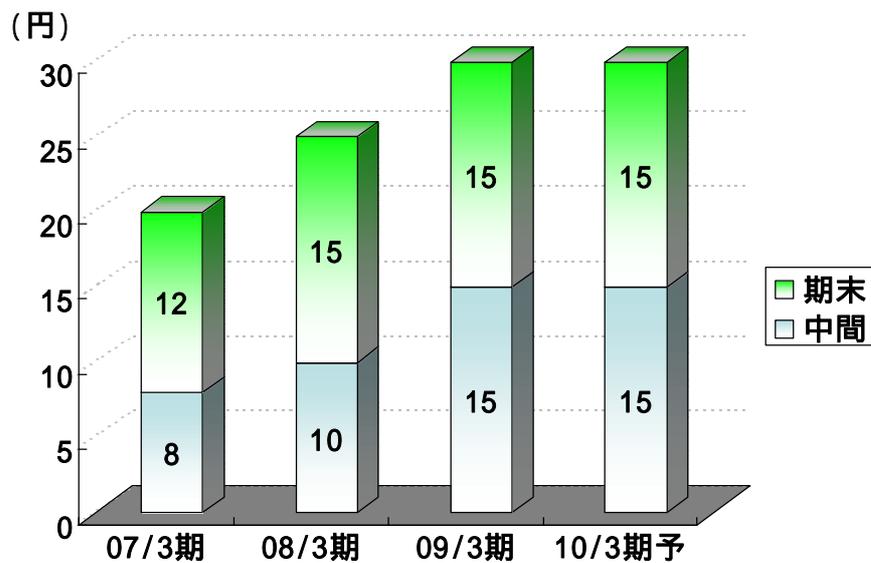
冷蔵庫

・荷主の在庫圧縮傾向	+ 2 億円
------------	--------

15



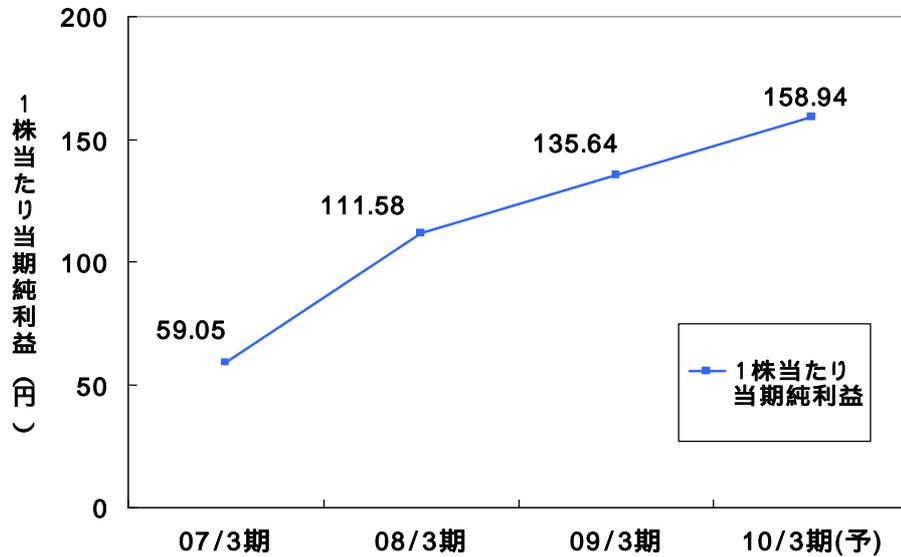
当期連結通期予想・・・配当金



16



当期連結通期予想・・・経営指標の推移



17

米国即席麺事業 業績概要

(単位:千ドル)

	当期 4/01/09 ~ 9/30/09		昨年比	前期 4/01/08 ~ 9/30/08	
	金額	構成比		金額	構成比
売上高 (NET)	307,164	100.0%	107.2%	286,444	100.0%
営業利益	64,464	21.0%	238.0%	27,084	9.5%
税引前利益	67,139	21.9%	214.1%	31,354	10.9%
四半期純利益	42,477	13.8%	195.7%	21,704	7.6%

18



この説明会資料に掲載されている、東洋水産株式会社の計画や見通し、戦略など歴史的事実でないものは将来の業績に対しての見通しであり、現時点で入手できる情報から得られた東洋水産株式会社の経営者の判断に基づいております。

実際の業績については様々な要因により、見通しとは異なる結果をもたらしうることをご承知おきください。



東洋水産株式会社